

あなたの「げんき」と「えがお」のために
みんなでちからをあわせます

2025年度
看護職員募集案内



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター

あなたの「げんき」と「えがお」のために みんなでちからをあわせませす

こどもの健康の回復及び増進と、 福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

神奈川県立こども医療センターは、1970年に設置された小児専門病院です。こども専門病院、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設の3つの施設からなり、病気や障がいのあるこどもたちに医療と福祉を一体として提供している総合医療・福祉施設です。

総合周産期医療センターとして認定されており、妊娠期(胎児期)から小児期、成人移行期に至るまで、こどもの成長発達に応じて、連続した医療を行っています。

また、小児がん拠点病院、アレルギー拠点病院、メディカルゲノムセンターとしても機能しています。各専門診療科、医療技術部門、看護局、施設が協力してチーム医療を行うとともに、こどもの発達に則した包括医療、高度医療を提供しています。センター敷地内には県立横浜南支援学校があり、入院・入所中のこどもたちも教育を受けることができます。

- 総 長：黒田 達夫
- 診 療 科：30科
- 病 床 数：430床
- 外来患者数：1日平均約700人
- 職 員 数：約900名(常勤のみ)
〔医師：110名 看護師：600名 その他：190名〕



こどもの最善の利益を考え、看護を提供します

- 16病棟、中央手術室、外来、看護教育科の計19看護単位があります。
- 看護提供方式はパートナーシップ・ナーシング・システム®を導入しています。(一部のセクションは除く)
- 患者さんやご家族とともに看護師が話し合い、情報を共有しながら看護計画を立案・実施します。
- 系統的な研修、専門性を深められるような教育体系を作り、キャリア支援に努めています。
- 専門看護師や認定看護師が、看護外来、救急医療、集中ケア、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、感染対策等にリーダーシップを発揮しています。
- 勤務体制は、2交替・3交替・変則勤務体制を併用し、働きやすい勤務体制を整えています。
- 保育士を配置し、看護師と連携しながらこどもたちの発達段階に合わせた関わりを大事にしています。



こどもの「懸命さ」に触れ、自分自身の成長へ

“あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませす”

これは、「わたしたちのちかい」という、こどもに向けた当センターの理念です。小児期発症の疾患には、長期にわたり療養を続けなければならないものも多くあります。長期療養を続ける中「えがお」や「げんき」になる理由は、こども一人ひとりで異なり、また成長発達を続けるこどもへは、看護だけでなく包括的な医療が必要となります。

「わたしたちのちかい」には「一人ひとりの最善を考え、チームで医療を提供していく」という意味が込められています。わたしたちは、こどもとご家族が困難を乗り越え、家族の中で「そのこどもらしく」成長発達していけるような看護の提供に努めています。看護の仕事は、辛く厳しく感じることもあるかもしれませんが、こどもの「懸命さ」に触れることで、自分自身も成長します。小児・母性看護師として、こどもの「げんき」と「えがお」のために一緒に働きましょう。

副院長兼看護局長

外来

23の診療科があり、年間約16万人の患者さんが受診します。看護外来や、みらい支援外来を開設しており、多職種で協力し、疾患や障がいを持つ患者さんやご家族が、地域でその家族らしく生活できるよう、支援をしています。



外科系病棟

発達段階別に3つの病棟があり、検査や手術を受ける患者さんが多く入院します。発達途中にある小児期の患者さんにとって、手術や入院がもたらす影響は様々です。一人一人の成長発達に合わせたプレパレーションを行って、前向きに治療に取り組めるように支援しています。

管理棟



こども医療センターは こんなところ



内科系病棟

小児がんや慢性疾患の患者さんが多く入院しています。入院期間が長い患者さんも多いため、成長発達が阻害されないよう、リハビリ部門や院内学級と連携しています。クリーン病棟は、病棟全体がクリーンルームになっており、免疫力が低下している患者さんでも、プレイルームで遊べるようになっています。

こころの診療棟



こころの診療病棟

様々なこころや発達の状況により、身体症状や生活の困りごとなどが現れた患者さんが入院しています。日常生活全般が治療・看護となり、入院生活や他者との関わりを通して、情緒面の成長発達ができるよう、チームで協力して支援しています。

集中・救急医療部門

PICU・HCU1（呼吸器系）・HCU2（循環器系）の3つの病棟があります。高度な救急医療を担うため、多くの医療機器があり、些細な変化を見逃さない細やかな観察が求められます。集中治療の中でも、こどもらしく過ごせるように工夫しながら看護をしています。

総合周産期医療センター

母性病棟・MFICU病棟、NICU病棟、新生児病棟があります。母性病棟・MFICU病棟には、妊婦検診で気がかりを指摘された方や、切迫早産で治療が必要な方が入院しています。分娩室はNICUと直通エレベーターで繋がっており、出産後すぐに赤ちゃんの集中治療を始めることができます。NICUでは集中治療と両立して、家族の始まりを支えるケアにも力をいれています。状態が落ち着いた赤ちゃんは新生児病棟に移動し、家族と一緒に退院の準備を行います。



中央手術室

年間約3200件の手術が行われています。こどもが怖がらずに手術に臨めるよう、術前訪問でのプレパレーションや家族同伴入室、おもちゃ・DVDを活用して緊張を和らげる工夫なども行っています。

周産期棟

中央手術室



母性病棟 MFICU病棟



NICU病棟 新生児病棟



施設・リハビリ棟

理学療法室
作業療法室
言語聴覚室
横浜南支援学校

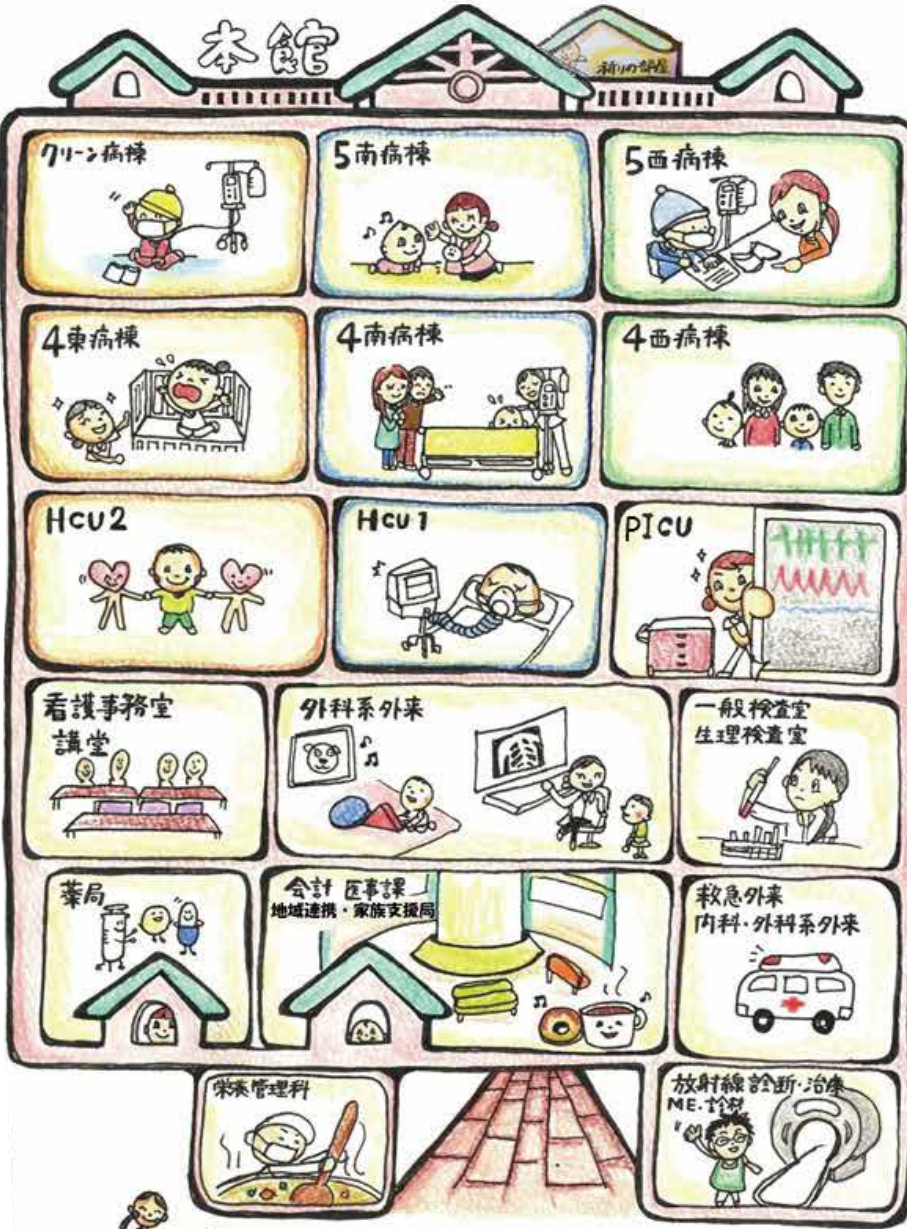


肢体不自由児施設
横浜南支援学校



施設リハビリ棟

重症心身障害児施設・肢体不自由児施設があります。長期に入所するため、多職種と協働し、社会性や生活習慣を身に付ける事や、個性を大切にその子らしく生活できることを目指しています。



こども医療センターの目指す看護

こどもにやさしい看護 それはこどもの権利が守られていること

こども医療センターを利用するこども達は、成人とは異なり、成長発達の途中で、疾患や障害を持ちます。疾患や障害は、こどもの日常生活に変化をもたらす、成長発達にも大きな影響をも与えます。こどもの権利を守るということは、疾患や障害があっても、その子らしくいられることを意味しています。私たちは、色々な職種や立場の人と連携し、こどもにやさしい看護を目指して、様々な取り組みを行っています。



こどもが笑顔でいられる 関わりを大切にしています

内科系の学童・思春期病棟で勤務しながら、1ヶ月に1度の造血幹細胞移植後外来を担当しています。病棟勤務では、こどもにとっての最善な看護を模索し、入院中も出来る限り笑顔で楽しく過ごせるように意識して関わっています。外来では、患者さんが地域に戻った後の身体的・精神的な症状、社会的生活の困難感に対して、早期治療・介入や他職種へつなげる役割を担っています。こどもと家族の不安や苦痛が、医療チームの関わりにより改善されたとき、とてもやりがいを感じます。



5階西病棟
看護師



リソースナース

変化する医療現場の最前線で働く看護師たちを、専門的知識や技能で支援し、よりよい看護が提供できるよう努めています。

- 小児看護専門看護師
- 皮膚・排泄ケア認定看護師
- 緩和ケア認定看護師
- がん性疼痛看護認定看護師
- 感染管理認定看護師
- 糖尿病看護認定看護師
- 新生児集中ケア認定看護師
- 手術看護認定看護師
- 小児救急看護認定看護師
- 小児プライマリケア認定看護師
- 認定遺伝カウンセラー
- NST専門療法士
- 認定小児アレルギーエドゥケーター
- 認定重症心身障害看護師
- 認定臨床輸血看護師

リソースナースからのメッセージ

現場の看護師が支援の主役！

縁の下の力持ちになる活動を目指して

当院は高度急性期医療を担う小児専門病院であり、どの病期であっても治療だけではなくその人の生活を支えるための看護介入が重要だと感じています。私はそんな支援者である看護師を支援したい！と思い、認定看護師を目指しました。

看護師は発達段階、地域の現状等、色々な事が絡み合った課題に直面します。

そんな時、現場と一緒に働いているという強みを活かし、生の声から課題をキャッチします。看護師自身の力が伸びるよう、知識や連携力を用いて介入しています。

ぜひ、一緒に看護を考えましょう！



小児プライマリケア
認定看護師

地域連携

退院・在宅医療支援室では、医療ケアを必要とするこどもが、スムーズに在宅へ移行できるよう、地域の病院や訪問看護、保健師などと連絡調整を担っています。実際に患者さんのお宅へ訪問することもあり、安全に楽しく在宅医療ができるよう、ご家族と一緒に考えます。



小児がん拠点病院

小児がんの患者・家族は、病気や治療から様々な苦痛を経験したり、難しい意思決定が必要となることもあります。こどもと家族にとってより良いQOLが得られることを目指し、多職種で連携しています。

**他の機関とも連携を取り、
相談支援を行っています。**

小児がん相談室の相談員として、所定の研修を受けた専従看護師が、他の連携病院や教育機関、行政とも連携をとり相談支援を行っています。小児だけでなく、AYA世代（思春期・若年成人）の患者さんも対象となり、発達段階やライフステージに応じた課題への支援や、長期フォローアップに関連した支援も行っています。



小児がん相談支援室
看護師

移行期支援・みらい支援外来

初めは、ご家族が中心になってこどもの病状理解や治療選択を行っていたとしても、こどもの成長に合わせて、こども自身が病気を理解し、病気と付き合いながら生活できる力を養う必要があります。成人診療科への移行支援、みらい支援外来などで、小児医療のその先に繋がるサポートをしています。

緩和ケアサポートチーム

こどもと家族の「つらさ」を緩和するための、様々な取り組みをおこなっています。

ファシリテッドッグ「アニー」もチームの一員で、看護師であるハンドラーとともに、ベッドサイドへ訪問したり、処置や検査・リハビリに付き添ったりします。「アニーと一緒にならがなされる」と話すこども達も多くなります。



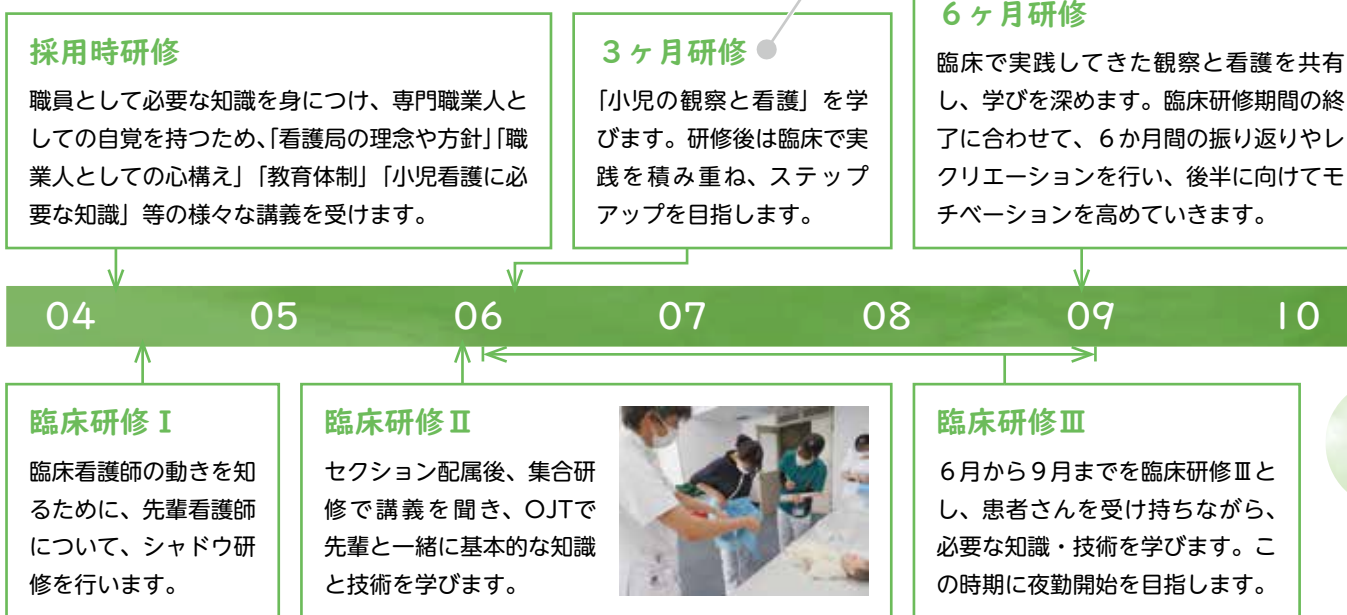
教育体制

幅広い視野と温かい人間性を持ち、患者の最善の利益を考えて行動することのできる看護師を育成します

看護師としての自己実現



新人看護師1年間の研修



新人看護師からメッセージ

先輩方の支えで、 看護師として頑張っています！

配属直後は不安でいっぱいでした。しかし、先輩方が毎日丁寧に指導をしてくださったおかげで、自分の看護を振り返り、日々学びを深めていくことができました。

特に新人サポーターの先輩は、常に一番近くで寄り添ってくださる存在でした。沢山の先輩方に支えられ、看護師としての第一歩を踏み出すことができました。

これからも学んだことを活かしながら、患者さんご家族にとって最善の看護が実践できるように頑張っていきたいです。



ハイケア・救急病棟1
新人看護師

新人サポーターからのメッセージ

新人看護師の 不安を減らせるようなサポートを

自分が新人看護師だった頃、様々な不安を感じていました。新人サポーターとなり、「新人看護師の不安が少しでも減るようにサポートすることが自分の役割だ。」と考え、日々関わりました。

私自身新人サポーターをするのは初めてであり、周りの先輩方にアドバイスを頂きながら取り組みました。新人看護師が成長していく様子に喜びを感じるとともに、私自身も人に教えることの難しさを感じながら主体的に考えて行動することができ、自分が成長する良い経験になりました。



ハイケア・救急病棟1
新人サポーター

新人教育委員からのメッセージ

互いに学び合う 「共育」を大切にしたい

今年、初めて新人教育委員を担当しました。自分自身も、病気や障害を抱えながら辛い治療を頑張っている子ども達、その治療を支える家族に寄り添った看護がしたいという思いから、子ども医療センターに入職を決めました。小児看護未経験の既卒者として入職しましたが、たくさんの指導と支えを受けながら頑張ってきました。新人看護師・新人サポーターとの関わりを通して、自分自身の知識・技術の振り返りにもなりました。しかし、教えることの難しさにも直面する日々でした。互いに学び合う「共育」の姿勢を大切にしながら、スタッフ全員で子ども達・家族への最善の看護を考えていきたいです。



ハイケア・救急病棟1
新人教育委員

エキスパートナースコース修了者メッセージ

その子らしさを支援する看護

病気や障害を抱える子どもたちが、その子らしく過ごすための支援を行いたいと考え、エキスパートナースコースを受講しました。普段関わりのない分野の看護も学び、多角的視点を得ることができました。また、講師の方々の語りから、改めて看護の魅力を感じました。この学びを自分やチームの看護実践に繋がられるよう日々奮闘中です。今度も、その子どもらしく、その家族らしく成長発達できるように支援していきたいと考えています。



肢体不自由児施設
看護師

エキスパートナースコース

小児看護のエキスパートを育成するためのコースを開講しています。院内研修でステップⅢ以上を取得した看護師が対象です。2年間のコースで、小児看護に関する様々な専門領域の講義を受け、看護研究にも取り組みます。コース修了者は、修了バッジをつけており、院内の各所でリーダーシップを発揮しています。



11ヶ月研修

1年間を振り返り、学びを統合します。「私が大切にしたい看護」について、ポスターセッションで発表します。



9ヶ月研修

様々な事例をディスカッションし、看護倫理について学びます。



わたしたちが こども医療センターを選んだ理由

こどもが元気に退院していく姿や家族からの言葉にやりがいを感じています

私は前職で介護士をしていましたが、生活面のサポートの他に医療面でのサポートもしていきたいと思い、看護師になりました。また、元々こどもが好きで、こどもに関わりたいこと、そして高度先進医療を行っている当院で小児看護の専門的な知識やスキルが学びたいと思い入職しました。

今は幼児から思春期までの外科病棟で働いています。様々な疾患の患者さんが入院され、日々覚えることや勉強などで大変なことはありますが、患者さんが元気に退院していく姿やご家族からの感謝のお言葉を頂いた際などにとてもやりがいを感じ、辛いことがあっても頑張っていると思っています。



4階東病棟 新人看護師
2023年入職

こどもと家族の最善を考え、看護を実践していきたい

私は、当センターの助産師の活動に魅力を感じ入職しました。

ハイリスク妊娠の看護・助産は常に緊張感がありますが、だからこそその学びもあります。いのちに関わる専門職としての人間性、倫理観は看護や助産ケアとして患者さんとの関わりに表れます。お腹の中で頑張っている胎児、そのいのちを守るために入院している患者さんにとっての最善は何かを考え、時に振り返り、いのちへの敬意を持って日々ケアを行うことで自身の助産師としての成長につながっていると感じています。



母性・MFICU病棟 新人看護師・助産師
2023年入職

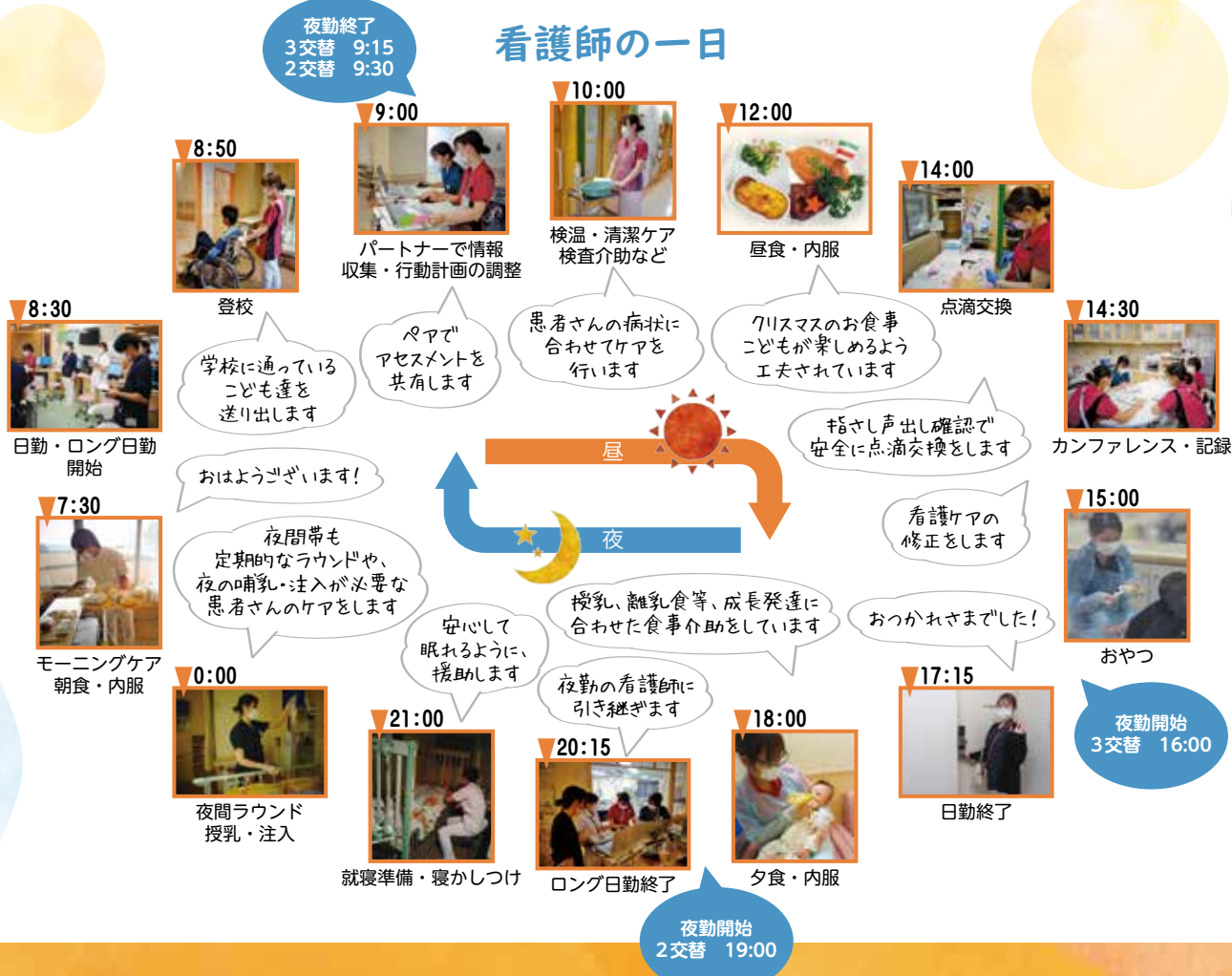
スタッフからの刺激を受けながら、こども達を支える看護を学んでいます

元々他病院のNICUに勤務していましたが、NICU卒業生たちを支える看護を学びたいと考え、小児専門病院の中に重症心身施設がある当院に転職を決めました。重症心身障害児を対象にする看護はとても繊細で、鋭い観察力が求められるため、難しく感じることもあります。しかし、自分のケアでこどもたちの表情が穏やかになったり、リラックスしていたり姿を見ることができると、とてもやりがいを感じることができます。また、スタッフ全員がこどもたちの生活がより良いものになるように考えており、毎日刺激を受けながら働くことができます。



重症心身障害児施設 看護師
2023年入職(既卒)

看護師の一日



アクセス 周辺環境



神奈川県立こども医療センター

- 公共交通機関 約1時間
車 約30分 羽田空港
- 公共交通機関 約45分
車 約25分 新横浜駅
- 公共交通機関 約1時間
車 約50分 東京駅
- 公共交通機関 約30分
車 約20分 横浜駅

観光スポット

- みなとみらい
公共交通機関 45分
車 25分
- 中華街
公共交通機関 40分
車 25分
- 鎌倉
公共交通機関 45分
車 40分
- ディズニーランド
公共交通機関 1時間30分
車 50分

周辺環境

- 京急弘明寺駅
バス 10分
- JR東戸塚駅
バス 17分
- スーパーマーケット
徒歩 5分
- ドラッグストア
徒歩 7分
- カフェ
徒歩 8分

多様な働き方の支援があります

育児と仕事の両立をしている看護師がたくさん働いています。復職支援として、産休・育児中のママの会を開催しています。

主な育児支援制度：育児休業、育児短時間勤務制度、短時間正規職員制度、院内保育

ママさんナースからのメッセージ

**2つの制度を利用しながら、
仕事と子育てに奮闘しています**

私は、こどもが2歳11か月の時に5階南病棟へ復職しました。短時間正規職員制度と部分休業の制度を併用し、夜勤も含めて働いています。夫も夜勤をしているため、夜勤の調整依頼をしながら、病棟スタッフの協力も得て、仕事と子育ての両立に奮闘しています。子育てを通し、家族看護の大切さを実感しました。患者さんとご家族に寄り添い、最善の看護を提供できるよう、今後も働き続けていきたいと思っています。



5階南病棟
看護師

看護師寮

病院に隣接した医療従事者宿舎（独身寮）があります。間取り1Kタイプ、バストイレ別。使用料月15,240円。遠方の方優先、居住期間は最大3年です。



寮 外観



寮 室内



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4

TEL 045-711-2351 (代)

神奈川県立こども医療センター 公式サイト kcmc.kanagawa-pho.jp



採用に関する情報はこちら

神奈川県立病院機構 看護職募集サイト

<https://kanagawa-pho.jp/kango/index.html>

